Vers Une Architecture 建築へ

早稲田大学の建築関係学科卒業生などの同窓会組織「稲門建築会」は、群馬県建設業協会（群馬建協）や全国建設業協同組合連合会（全建協連）の会長を務める青柳剛氏（沼田土建社長）と、建築家の内藤廣氏の特別講演を５月28日に東京都新宿区の同大西早稲田キャンパスで開いた。ともに1974年に同大理工学部建築学科を卒業し、卒業設計賞「村野賞」を受賞した同窓生。「早稲田建築の果たすべき役割」をテーマに、団体トップや建築家としての活動のポイント、心構えを語った。

沼田土建社長 青柳 剛氏 対談 建築家 内藤 廣氏

稲門建築会特別講演「早稲田建築の果たすべき役割」

人間側から考えること教わった

内藤氏

内藤氏

講演の冒頭は、学生時代のエピソードと卒業後の主な活動を紹介した。内藤氏は、学生運動が活発で「世の中がどうなるか分からない中で青春を過ごした」と振り返った。卒業設計は「生きることと死ぬことがテーマ」だったという。東日本大震災の国営追悼・祈念施設（岩手県陸前高田市）の設計については「生きる、死ぬという時間の流れで建築をどう考えるか、（卒業設計のテーマが）頭にあった」と述べた。

被災地の復興に関し、「家族を亡くすなどいろいろな事情の人がいる。生きる、死ぬがある中で建築は何ができるのか。こういう思考になるのは早稲田で身に付けたことだと思う」と語った。「商店会の人たちとコミュニケーションが取れている。巨大な開発をどうなじみのあるものにするかには、若い頃に身に付けた人やものに対する考え方がある」と、先導役を担っている東京・渋谷のまちづくりとの関係性にも触れた。

青柳氏は、群馬建協の会長に就任した経緯から話した。歴代会長は県庁所在地や高崎市の会社からの選出で、「群馬の端っこ（の沼田市）にいる地方の建設業らしさが期待されたと考えた。真ん中ではない感覚が大事になると思った」と２００９年の就任時の心境を語った。「安ければ安いほどいいというマイナスの風が吹いていた」と当時を説明。災害対応を担っている地域建設業の必要性を国民に理解してもらおうと始めた情報発信の取り組みが奏功し、地上波のテレビ番組から除雪の担い手が減っている警鐘を鳴らせたことを紹介した。

青柳氏

青柳氏は、若い技術者や技能者に働き続けてもらうために、人材育成と研修の重要性を強調した。情熱のある地元関係者が職人育成機関「利根沼田テクノアカデミー」（沼田市）を支えていることや、全建協連の「ユニフォームデザインプロジェクト」と「仮囲いデザインコンテスト」に早稲田人脈から協力を得たエピソードを明かした。団体活動を進める上で心掛けていることには、「自慢できるものづくりをしたい気持ち」と「似て非なる意見」を大事にすることや、「端っこから真ん中を見る感覚」を挙げた。早稲田建築のキーワードの一つには「感動がある」と私見を述べた。

◇……◇

青柳氏 端っこから真ん中を見る感覚大事

続いて建築家の古谷誠章氏（早大教授）が進行役となっての対談に移った。古谷氏は、関係資料が１００枚ほどになった青柳氏と、図柄中心だった内藤氏の卒業設計を例に挙げ、「対照的な2人」と紹介した。その上で、「中心を見返すことが共通する。青柳氏は端から中枢、地方から世界を変えるような覇気を感じる」と指摘した。青柳氏は「『似て非なる人が大事』と内藤さんに言われたことがある。非なる人の意見は大切にしたい」と述べた。

古谷氏は世界・経済情勢やコロナ禍を踏まえ、「早稲田建築は何ができるか」と質問した。内藤氏は「できることはたくさんある」とした上で、「建築も都市もどういうことでも人間側から考えるということを大学で教わった。人間側から強く発言する人がたくさんいてほしい」と求めた。「その場を世界の中心と思えるか、群馬を日本の中心と思えるか。そういう視点を持っていたい」とも述べた。

ウェブ配信した講演は約２００人が視聴した

建設産業システムの改善や人材育成に関し、「都会の真ん中よりも離れたところからの方がアドバンテージがあるか」という古谷氏の問いに、青柳氏は「都会や地方とかではなく、一緒に寝泊まりしながら取り組むのが大切。その都度、評価してもらいながら、一緒にやることで職人は育つ」と答えた。その上で「変えるときは、端にいても本体や真ん中（の政府）とやり続けることが大事」とも述べた。

古谷氏は「早稲田の活力をけん引されている」と青柳氏と内藤氏をたたえ、「薫陶を受ける機会を提供していきたい」と講演を締めくくった。稲門建築会は17年度特別功労賞を青柳氏に、18年度同賞を内藤氏に贈っている。特別講演は、会長に日建設計の亀井忠夫代表取締役会長が就く人事を決めた通常総会後に行った。参加者を絞り、オンラインで配信。約２００人の会員が視聴し、リアルとオンラインの垣根を越えた一体感のある講演となった。